教育協議会研究

【ブロック交流研究会研究】

山梨南ブロック …… 117

山梨北ブロック …… 118

笛川ブロック …… 119

塩山ブロック …… 120

松里ブロック …… 121

勝沼ブロック …… 122

【特別委員会研究】

児童会・生徒会活動の活性化にむけた研究会 …123

山梨南ブロック交流研究会

ＩＣＴの活用と小中連携

Ⅰ　主題設定の理由

同じ地域で学ぶ子どもをともに教育していくという立場で、小中の教育活動や子どもの実態、課題の共通理解を図り、系統的によりよい指導や支援が行えるように本主題を設定した。ＧＩＧＡスクール構想の推進を視野に入れ、ＩＣＴの活用に重点を置いた。

Ⅱ　研究の内容

１　第１回交流研究会

（１）日時　２０２５年５月１４日（水）　１５：３０～１６：４５

（２）内容　学習会（講演会）

（３）演題　「学習者用デジタル教科書の利活用にむけて」

（４）講師　加納岩小学校　古屋　達朗　教諭

２　第２回交流研究会

（１）日時　２０２５年１１月１９日（水）　１４：００～１５：４５

（２）内容　ア　山梨南中学校における授業提供及び授業参観

イ　情報交換会【研究・学力向上、ＩＣＴ・校務ＤＸ、生徒指導】

Ⅲ　成果と課題

１　成果

・第１回研究会では、学習者用デジタル教科書の積極的な利活用にむけて、利点や必要性について学ぶことができた。授業改善事例の動画視聴により、授業の各場面で学習支援ソフトを併用する効果をより具体的にイメージすることができた。また、ワークショップにおいて、デジタル教科書の機能と「考えるための１０の技法」を組み合わせ、スライドに表現していくことで、教科等を超えて児童に知覚化させることの大切さを学ぶことができた。

・第２回研究会では、中学校までに身に付けさせたい力や小学校からの積み重ねの大切さを再確認できた。中学校での情報活用能力や生徒指導上の課題を共有し、小学校段階から継続的な指導を行うことの重要性を確認することができた。

２　課題

・中学校に進学した際、どの生徒も同程度のＩＣＴ活用スキルを身に付けた状態で、スタートを切れるようにすることが課題である。

（ブロック長　　望月清美）

山梨北中ブロック交流研究

研究主題　「小中の連携を深め，山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす」

Ⅰ　主題設定の理由

山梨北中ブロックの児童･生徒を健全に育てるためには，普段交流の機会の少ない小･中の教職員が共有の活動や話し合いを持ち，教育上の課題を見つけ，より良い解決の方法を探り，連携を深めることが必要だと考える。

本ブロックでは，これまでも同じ地域で学ぶ子どもたちを共に教育するという立場から，共通の教育課題に対して講師を招き，学び合いを行ってきた。その取組を通して，目の前の児童・生徒の指導に生かせる有意義な内容であったと成果を確認し合うことができた。また，小･中の授業参観や研究会についても継続して行ってきたが，児童・生徒の実態の理解が深まると共に，発達段階による特性や各校の特色，学力向上の取組などを交流し合うことができ，その意義を実感できたところである。

今年度も，学習会と授業参観・研究会という交流研究により，本ブロックの児童・生徒理解と小・中連携を深め，各校の指導に活かしていきたいと考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究の具体的内容

1　第１回交流研究会

（1）　目的　学習会や情報交換を通して小中の連携を強化し今後の教育活動に生かしていく。

（2）　日時　令和７年５月 14 日（水）　午後３時 30 分から

（3）　内容　学習講演会と情報交換会

（4）　演題　「公立小中学校における特別支援教育のあり方について」

（5）　講師　相談支援センター　副主幹・指導主事　若槻　洋貴 先生

2　第２回交流研究会

（1）目的　情報交換を通して，小中の連携を強化し今後の教育活動に生かしていく。

（2）日時　令和７年 11 月 19 日（水）　午後２時から

（3）場所　岩手小学校・後屋敷小学校

（4）内容　授業公開と情報交換会

Ⅲ　成果と課題

1　成果

・学習会を通して，合理的配慮が必要な子供たちへの対応について学ぶことができた。

・小中の先生方が，一緒に同じ講演会で学べたことは有意義だった。

・それぞれの授業を見ることにより、学校や児童の様子がわかった。また，情報交換をすることで，教員間で連携することができた。

2　課題

・学校や生徒の様子を知ってもらうという観点から考えると、１回目は学習会よりも中学校の授業公開・情報交換会に、２回目は小学校（２校）での授業公開・情報交換会に変更していく。

（ブロック長　　石井　美保）

笛川ブロック交流研究会

研究主題

義務教育学校へ向けた小中連携とICTの活用と推進

Ⅰ 主題設定の理由

来年度より本校は義務教育学校へ移行し、９年間を見通した系統的・連続的な教育を推進する。小中の枠を越えて教職員が共通の教育観のもと一貫した指導を行い、学習指導と生徒指導の連続性の確保を目指す。また、整備されたICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、情報活用能力の育成を図る。これらを通して円滑な移行と教育の質の向上を目指し主題を設定した。

Ⅱ 研究の内容

１ 第１回ブロック交流研究会

（１）日時 令和７年５月１４日（水）１３：４０～

（２）場所 笛川小学校

（３）内容

・笛川小学校における全学年の授業参観

・研究会および情報交換

２ 第２回ブロック交流研究会

（１）日時 令和７年１１月６日（水）１３：１０～

（２）場所 笛川中学校・笛川中学校

（３）内容

・笛川小学校５、６年生と笛川中学校１、２年生によるPBL授業

・研究会および情報共有

Ⅲ 成果と課題

小中合同の授業参観や研究会を通して、９年間の発達段階を見通した指導の共通理解が深まり、中学校への円滑な接続に向けた意識改革が進んだ。そして、教職員同士の対話やICTによる情報共有により相互理解が深まり、義務教育学校開校に向けた協力体制が構築された。さらに、共同編集やデジタルプラットフォームの活用により、ICTスキルの系統的な積み上げと情報共有も進んだ。一方で、学年や担当による研究への関わり方の差を解消し、全教職員が研究の全体像を把握できる仕組みづくりが課題である。今後、発達段階に応じた効果的な支援について、職員間で密に共有、活性化させることが、義務教育学校の開校にあたり持続可能な９年間の指導体制の構築につながると考える。

（ブロック長 名取政也）

塩山ブロック交流研究会

「小・中の連携を深める中で，系統性をつかみ授業に生かす」

Ⅰ 主題設定の理由

小・中連携においては、義務教育 9 年間の教育活動を俯瞰し、指導の系統性を踏まえた授業改善を推進することが不可欠である。また、塩山中学校区における生徒指導上の諸課題に対し、校種を越えて協力体制を構築することも重要な役割である。さらに、デジタル学習基盤を有効に活用し、児童生徒の９年間の学びを見据えた切れ目のない支援を可能にする必要がある。そのため、地域が抱える教育課題を共有し，教育課程の系統性も確認しつつ，今後の教育活動に生かしていけるよう，本主題を設定した。

Ⅱ 研究の具体的内容

1 第1回ブロック交流研究会「塩山中学校授業公開及び情報交換会」

（1）日時　令和７年5月 14 日（水）14:00～16:00

（2）内容　ア 塩山北小学校の授業を参観する。

イ 分科会に分かれ，話し合いの柱について情報交換・意見交流を行う。

2 第2回ブロック交流研究会「学校授業公開及び情報交換会」

（1）日時　令和7年11月19日（水）14:00～16:00

（2）内容　ア 大藤小学校・玉宮小学校・神金小学校の授業を参観する。

イ 学習会では、多田 孝志 先生（金沢学院大学）より「教育実践の高度化に向けて」という演題でお話を伺う。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 小・中学校の実態を互いに知ることで、小学校から中学校への接続を意識した授業づくりや発達段階に応じた授業づくりについて学ぶことができた。
- 多くの学校で ICT 端末が効果的に活用されており、学びを深めるための具体的な事例を知ることができた。分科会では、今後の授業改善のための多様な取り組みや課題等について情報交換を行い、自校に還流することができた。
- 各校で地域の特色に応じた教育が展開され、学校と地域の結びつきをより強める必要性を共有できた。

2 課題

- 分科会では、当日の授業に関して感想や情報交流を行ったり、テーマに関する資料を事前に共有したりするなど、当日の協議がよりいっそう深まるための工夫をする必要がある。
- 各校におけるICT端末を使った授業の実態を考慮しつつ、ブロック全体としてデジタル学習基盤を活用した授業づくりについての連携の在り方について、模索していく必要がある。

（ブロック長 池田 理恵子）

松里ブロック交流研究会

地域で育てる・地域を知る・学び続ける
～同じ地域に学ぶ子供たちの教育のために、小・中・地域の交流と連携を深めよう～

Ⅰ　ブロック交流研究会の目的

・松里中学区に勤務する教職員の連携を深める。（地域で育てる）
・松里中学区について学習する機会とする。（地域を知る）
・各校の実践発表やテーマを設定して討議することで、教職員の学びを深めると同時に力量を高める。（学び続ける）

Ⅱ　研究の内容

第１回ブロック交流研究会　令和７年　５月１４日（水）　松里中学校 2F ホール
・学習会　「私たちの知らない歴史」　　講師：松里研究会　代表　土屋幸三　様

第２回ブロック交流研究会　令和７年１１月１９日（水）　松里小学校各教室
・松里小学校授業参観　１年生：国語　　３年生：英語　　５年生：社会
・研究会（各校の研究の様子や児童生徒の情報交換）

Ⅲ　成果と課題

１　成果

１回目の学習会は地域の方から歴史や戦時中の様子など、貴重な話を伺うことができた。戦後８０年を迎えた今、教職員が地域の歴史を直接学べたことは、小学校の町探検や中学校の平和学習など、子供たちに地域を伝えるための良い機会となった。２回目の授業参観は小学校で端末を活用して学習する様子を見て、普段の指導について考えるきっかけとなった。また、互いの学校の児童生徒たちの様子を共有することで、「中学校区全体で子どもを見守る」という意識を改めて強く持つことができた。

２　課題

１回目は中学校の行事と日程が重なり、中学校側の参加者が少なかったことが大きな課題である。地域学習は小中連携の柱となる重要なテーマであるため、次年度は計画段階から十分に調整し、全教職員が参加しやすい体制を整える必要がある。また、研修で得たことを、いかに継続して指導に活かしていくかも課題である。ICT 活用や効果的な授業デザインなど、研修で学んだことを、その場限りで終わらせず、年間を通じて各校の授業実践へ反映させていく必要がある。来年度は授業づくりについて、講師の先生を招聘し、学習会を開く予定である。

（ブロック長　　竹川佳那 ）

勝沼ブロック交流研究会

甲州市「夢をかなえる学びのプロジェクト」との連携を図りながら、同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育の在り方を考える。

Ⅰ　主題設定の理由

「地域の子どもは、地域で教育する」という基本理念のもと、同地域の子どもの育成に携わる教職員が、甲州市の「夢をかなえる学びのプロジェクト」との連携のもと、小中の系統的な教育の在り方を研究するために本主題を設定した。

Ⅱ　研究の内容

1　第1回ブロック研究会（会場：勝沼小学校）

（1）日時　5月14日　15:30～16：40

（2）内容

児童・生徒の実態について課題を共有し各校の取り組みをもとに解決策を考える。

「分科会に分かれての研究会」

・基礎的な学力の定着に向けての取り組み
・個別に支援が必要な児童・不登校児童への支援方法
・DXの推進に向けての取り組み
・家庭や地域との連携についての取り組み

2　第2回ブロック研究会（会場：勝沼中学校）

（1）日時　11月26日　13:30～16:30

（2）内容

リーディングDXスクール事業授業公開・研究会
13:40～14:30　研究授業
14:45～15:15　研究会
15:30～16:30　学習会（体育館）
「学びを愉しむ生徒の育成へ向けた授業づくり」山梨大学　三井一希先生

Ⅲ　成果と課題

○他校の校内研究の概要や取り組みの様子がわかり、多くのことを情報交換できた。
○勝沼ブロックで足並みをそろえて取り組めている内容を確認できてよかった。
○情報共有にて、卒業した児童の様子が聞けて良かった。
○各校の実践を共有することができ、今後の取組の参考となった。
○勝沼中での子供主体の授業改善の取組の様子が分かってよかった。小学校でも子供主体の授業改善を進め、中学校の学習につなげていきたい。
○授業参観だけでなく、研究会では普段の児童の様子や授業者からの振り返りを聞くことができ、さらに学習会にて三井先生から専門的なアドバイスを得ることができて多くの学びを得ることができた。
△研究日が二学期の期末テスト直後で、成績交換や選挙活動開始日など、校内行事と重なったため、授業担当者の負担が大きかった。

（ブロック長　中根淳）

児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会の活動

Ⅰ　研究の内容

1　活動目標

ア　助け合い・ボランティア活動・環境問題・平和を守ることなどに対する活動を活発にします。

・社会奉仕活動を推進します。

・共生社会の実現に向けて、ジェンダー平等をはじめとする様々な取り組みを推進します。

・身体の不自由な人への関心を高め、積極的に協力します。

・戦後８０年を踏まえ、平和と環境を守る活動に関心を高めていきます。

イ　地区「子ども・保護者・教職員の会」を成功させます。

ウ　私たちの声を、県や市町村に強く要望していきます。

以上の目標を立て、本年度取り組んできました。そして、代表者会、子ども・保護者・教職員の会の開催、古切手やベルマーク集めなど県の児生連活動にも参加協力していきました。

2　経過報告

６月１７日（火）	東山梨地区　児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会 （東山梨地区　第１回顧問の会（塩山中学校））
７月　２日（水）	第１回県代表委員会（県立図書館）
７月　８日（火）	東山梨地区　児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会 （東山梨地区代表者会（甲州市民文化会館））
１１月１１日（火）	東山梨地区「子ども・保護者・教職員の会」（塩山中学校）
１１月１９日（水）	アフリカ飢餓救援活動（お米・募金）しめ切り
１月２３日（金）	古切手・ベルマーク等の最終しめ切り
２月　９日（月）	第２回県代表委員会（県庁防災新館） 知事・教育長・県議会議長と語る会　要望書提出 （県庁防災新館・県議会議事堂）
３月　５日（木）	東山梨地区　児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会 （東山梨地区　第２回顧問の会（東山梨教育会館））

Ⅱ　成果と課題（活動報告）

1　地区児童会・生徒会活動の活性化に向けた研究会［地区代表者会］（甲州市民文化会館）

代表者会では、今年度の活動目標や取り組み内容の共有をした。各校での児童会・生徒会活動を充実させ、児生連の場で共有することが東山児生連の活動を活性化させることを確認できた。後半の学習会では、中学生が中心となって「当事者意識を高めるために」というワークショップを行った。校種を越えた意見交換を行う中で、「人任せにせず、自分の行動に責任を持つ」「まずは自分たちが主体的に取り組む姿勢が大切」などの意見が出され、小中の垣根を越えて自分たちの課題について考えることができたので、自校に戻ってから自信をもって活動する様子が見られた。

2　東山梨「子ども・保護者・教職員の会」（塩山中学校）

分科会では児童会３分科会、生徒会１分科会の４分科会に分かれ、研究討議が行われた。参加した児童生徒が、自ら任された係分担をこなし、それぞれの提案校から児童会・生徒会活動の発表がなされた。また、実践発表をもとに各校の取り組みの様子などの意見交換が活発に行われ、提案校の取り組みを各校で共有し、今後の児童会・生徒会活動に生かされることを期待したい。全体会では、古切手・ベルマーク回収など例年行っているボランティア活動の意義が共有され、取り組みの提案があり、戦後８０年という節目に、平和に関する実践を行うなど、改めて平和や人権、福祉について考え、多くの協力を得ることができた。

【各校からの提案資料】児童会Ａ　児童会Ｂ　児童会Ｃ　生徒会

3　第２回県代表委員会　知事・教育長・県議会議長と語る会（県庁防災新館・県議会議事堂）

県代表委員会では、知事・教育長・県議会議長と語る会の内容の検討や、今年度の県児生連の反省を行った。知事・教育長・県議会議長と語る会では、各地区から今年度の活動内容を報告するとともに、県への要望の発表を行った。東山梨地区からは「学習環境の整備について」「安心安全『住み続けたい』と誇りを持てる地域づくり」の２点を要望するなど、県当局と子どもたちの間で活発な意見交換が行われた。

4　ボランティア活動について

本年度も様々なボランティア活動に各校協力していただき、以下のような成果であった。

・アフリカ救援米　394.79 kg　・輸送費募金　172,721 円
・古切手　17.57 kg　・ベルマーク　2,36 kg

※第１回代表者会で決定

各校の取り組み及びご協力に感謝したい。

（ 児童生徒連絡協議会担当　佐藤　政幸 ）